

第11回全国銃剣道指導者研修会



突きの体勢を確認する参加者

第11回全国銃剣道指導者研修会（主催＝日本武道館、全日本銃剣道連盟、後援＝スポーツ庁）が11月8日～10日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）において参加者78名が集まり実施された。

本研修会は、全国で銃剣道を指導する中学、高等学校の教員及び社会体育指導者を対象に、「銃剣道」の理解を深め、全国的な銃剣道指導者の養成と資質向上に寄与することを目的として行われた。

◆11月8日（金）

はじめに開講式では、市野保己^{いちのやすみ}全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が挨拶に立ち、「参加されている皆様は、計画・実施段階、現場など様々な意味で指導されている方々です。この研修会の場を大いに活用して銃剣道の指導力を高めてください」と挨拶した。次に端春彦^{はたはるひこ}日本武道館振興部副参事兼振興課長が「平成24年に中学校で武道授業が必修化されてから12年が経過しました。本研修会の内容を地元を持ち帰り、ぜひ地域に広げたいと思います」と述べた。

開講式後、中学校武道必修化指導書DVD武道編の視聴を行い、土屋裕睦^{つちやひろのぶ}特別講師が「新しい時代にふさわしい指導法」と題してティーチングとコーチングの講義を行っ



土屋裕睦
特別講師

た。「やらせる指導」から「生徒の心に火をつける指導」へ移行する手段として、指示よりも質問を多くすることなどが紹介された。土屋特別講師は、軽視されがちな問題としてスポーツハラスメントを挙げ、それに気付くためにも生徒が何か言いたいそぶりを見せた場合は少しでもいいから話を聞いてほしい、と述べた。

その後、滝沢元気^{たきざわげんき}講師の進行のもと、参加者4名を先生役、銃剣道未経験者を中心とした数名を生徒に見立て、①銃剣道の歴史・特性・競技方式・服装・用具、②木銃の取扱・礼法、③構え・直れ・足さばき、④突き方の各項目で模擬授業を行った後、滝沢講師から、銃剣道の専門用語はわかりやすい言葉に置き換えるように指導があった。



生徒役の参加者に意見を求めながら模擬授業を進める

◆11月9日（土）

2日目は、中学校必修化対応・高校部活動班と社会体育指導者班の2班に分かれて研修を行った。

<中学校必修化対応・高校部活動班>

瀬尾憲次講師が初日の復習を行った後、銃剣道の稽古を長く続けるために病気をしない・怪我をしない・気にしないという3つの「しない」を実施して3年先の稽古を意識してほしいと説明があった。

後半は、石川慎也講師による、姿勢を崩さず、真っ直ぐ突くための練習方法としての新聞紙突きと風船突き、ボールを用いたボウリングのゲームを実践した。



その後、有段者の参加者と初心者の参加者がペアになり、有段者が入退場やかけ声を含めた形演武ができるように指導を行い、有段者が審判を務め、初心者による各組対抗の形演武のトーナメント試合を行った。瀬尾講師から「勝ち進んだペアは有段者にも劣らない演武をしていた。この短時間で演武ができるまでになったのは、指導する側とされる側のどちらの意欲も高かったからだと思います」と講評があった。最後に有段者による演武を行い終了した。

<社会体育指導者班>

はじめに佐藤亨講師が、全日本銃剣道連盟国際普及委員会委員長のバティスト・タヴェルニエ氏が作成した映像を上映した。映像では、銃剣道の成り立ちから、現代の銃剣道に至るまでの変遷、銃剣道の基本となる技が紹介されていた。銃剣道ならではの面白さとして、銃剣道対短剣道、銃剣道対なぎなた等、異なる武具と稽古する映像も紹



介され、それらに対応するための「形」があることも示した。さらに国際普及委員会が取り組んでいる国内外で実施してきた国際セミナーの実施内容と映像の一部も紹介した。また、障がい者武道の実例として、下肢障害のある方が短剣道を実践している映像も紹介された。

続いて「銃剣道の形」の研修に入り、参加者が指導者役となり、はじめに形の目的・心構え・効果を提示した上で、全体に指導していった。

午後は、基本技（構え、足裁き、直突、払い突き等）の指導法を行った後、最後に創意工夫資材を使った指導法として、竹・傘・スケール・円形資材等を使用した指導法を実践した。

◆11月10日（日）



市野保己講師

市野講師が「全日本銃剣道連盟における必修化への対応と取組」の講義を行い、武道推進モデル校の取り組みやスポーツ庁の委託事業の実施状況などを説明した。続いて、実際に中学校で銃剣道の授業を行っている参加者による事例紹介を行った。楽しいと生徒は食いついてくる、担任の先生の方針に沿って授業を進められるように事前に綿密な打ち合わせを行っている、という話がでた。

閉講式では、代表者に修了証を授与し、佐藤講師が講評を、最後に市野全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。